

△ ドオルトン錠 [内] <製造中止>

【重要度】<製造中止> 【一般製剤名】ノルゲストレル、エチニルストラジオール (U) 【分類】経口黄体・卵黄混合ホルモン剤

【単位】△ノルゲストレル0.5mg、エチニルストラジオール0.05mg/錠

【常用量】1錠

【用法】分1

【透析患者への投与方法】腎疾患のある患者ではナトリウムまたは体液貯留により症状を悪化させることがあるため、慎重投与になっている (1) が減量の必要はない (5)

【透析患者への投与方法】減量の必要なし (5)

【特徴】プロゲステロンのみだと投与中の出血が起ったり、投与終了後の消退出血の欠如が起りやすいため、少量のエストロゲンを副作用防止のために添加している。

【主な副作用・毒性】血栓症、肝障害、不正出血、乳房痛、電解質異常、座瘡、色素沈着

【モニターすべき項目】血圧、肝機能、Papanicolaou test、身体所見、血糖値、脂質プロファイル、リポ蛋白プロファイル

【F】Norgestrel : ほぼ100%、Ethinyl estradiol : 83% (U)

【tmax】3hr

【代謝】Ethinyl Estradiol : 肝でCYP3A4により代謝。その後ほとんどが抱合体になり、腸内細菌によって加水分解されて再吸収され、腸肝循環する (U)

Norgesylrel : 活性のないd体と活性体の1体は代謝が異なり、1体は肝で急速に硫酸抱合される (U)

【排泄】Ethinyl estradiol : 腎排泄22~58%、糞便中30~53%、胆汁中排泄26~43%(U)

Norgesylrel : 腎で非活性代謝物として排泄される (U)

【t1/2】Ethinyl estradiol : 26hr、Norgestrel : 8hr

【蛋白結合率】Ethinyl estradiol : 95%、アルブミンと結合

【透析性】Ethinyl estradiol : 蛋白結合率が高いため、透析で除去されにくいと思われる (5)

【TDMのポイント】TDMの対象にはならない

【更新日】20081118

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。